

(1) 次年度運行に係わる協議事項

① 地域間幹線系統 (国庫補助路線)

系統番号	系統名 (路線名)	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行 回数 (回/日)	運行時間帯 (修善寺駅発)	平均乗 車密度 (人)	平成 27 年度 年間経常損益 (円)
		起 点	経過地	終 点					
1	中伊豆線	修善寺駅	貴僧坊	筏場新田	12.7	14.4	6:13~21:38	2.5	-23,340,677
2	修善寺・戸田線※H28~	修善寺駅	虹の郷	戸田	24.9	14	6:10~19:37	-	-

中伊豆線

(金額:千円)

運行年度	利用者数(人)	経常収益	経常費用	経常損益	国庫補助金	県補助金
25	100,475	21,275	40,877	-19,602	4,465	4,465
26	73,981	16,245	42,601	-26,356	4,711	4,711
27	92,066	18,932	42,273	-23,341	5,081	5,081

■中伊豆線については、中伊豆地域と修善寺駅間を結ぶ重要な路線となっており、沿線住民の通勤・通学等の日常生活における主要な交通手段となっているため、今後も同様に運行を継続し地域間幹線系統として維持確保を図りたい。

■戸田線は、平成27年10月から国庫補助路線として運行している。修善寺駅から虹の郷を経由し、鉄道のない戸田地区までを結ぶ重要な路線であり、利用者は、戸田地区から修善寺駅への通学・通院等の利用、修善寺駅から戸田方面への観光利用が多く、沼津市と伊豆市の境を越えた利用が半数以上を占めている。様々な改善策を実施しているが収支状況は依然として厳しい状況であることから、引き続き国庫補助路線として運行を継続したい。(沼津市:1月24日沼津市公共交通活性化対策協議会において承認済)

② 静岡県バス路線維持助成費補助対象路線 (県過疎バス)

系統番号	系統名 (路線名)	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行 回数 (回/日)	運行時間帯 (修善寺駅発)	平均乗 車密度 (人)	平成 27 年度 年間経常損益 (円)
		起 点	経過地	終 点					
1	中伊豆線	修善寺駅	姫之湯	筏場新田	12.7	1.4	6:30~16:45	1.2	-3,069,830
2	中伊豆線	修善寺駅	上和田橋	入屋	4.9	2.2	7:25~17:05	1.1	-1,618,103

(金額:千円)

運行年度	利用者数(人)	経常収益	経常費用	経常損益	市補助金	うち県補助金
25	14,615	2,568	6,561	-3,993	2,405	1,202
26	14,820	2,516	6,695	-4,179	2,603	1,240
27	12,597	1,899	6,586	-4,687	2,396	1,197

■中伊豆線については、中伊豆地域と修善寺駅間を結ぶ重要な路線となっており、沿線住民の通勤・通学等の日常生活における主要な交通手段となっているため、来年度も今年度と同様に運行を継続したい。(今年度と申出路線の変更なし)

③ 自主運行バス

系統番号	系統名 (路線名)	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行 回数 (回/日)	運行時間帯 (修善寺駅発)	平均 乗車 密度 (人)	平成 27 年度 年間経常損益 (円)
		起 点	経過地	終 点					
1	修善寺・天城の杜線	修善寺駅	本立野	天城の杜	16.9	5.5	6:20~19:00	3.1	-6,683,572
2	修善寺・持越温泉線	修善寺駅	本立野	持越温泉	19.5	1.5	17:40	5.3	440,414
3	修善寺・持越温泉線	修善寺駅	吉奈温泉	持越温泉	21.7	1.0	15:30	3.7	-1,119,934
4	修善寺・湯ヶ島温泉線	修善寺駅	本立野	湯ヶ島温泉	14.7	4.5	7:15~18:30	2.5	-6,252,366
5	修善寺・湯ヶ島温泉線	修善寺駅	吉奈温泉	湯ヶ島温泉	16.9	1.0	12:45	2.7	-1,465,090
6	修善寺・柿木大野線	修善寺駅	下柿木	柿木大野	11.8	1.8	15:45~18:10	1.0	-3,573,775
7	柿木循環	修善寺駅	柿木循環	修善寺駅	17.1	2.0	7:35~13:25	0.5	-3,367,727
8	天城小・長野線	天城小学校	田沢	長野	8.0	0.8	14:55~15:55	5.3	594,600
9	修善寺・上大沢線	修善寺駅	牧之郷	上大沢	9.8	2.4	5:55~16:00	2.0	-2,793,546
10	修善寺・湯舟口線	修善寺駅	小山	湯舟口	4.4	2.0	6:17~18:38	1.7	-810,108
11	修善寺・湯舟口線	修善寺駅	寺山口	湯舟口	4.6	2.0	6:34~18:55	3.6	173,842
12	修善寺・競輪学校	修善寺駅		競輪学校	6.7	0.6	6:55	1.9	-468,377
13	修善寺・下尾野口線	修善寺駅	冷川	下尾野口	10.4	3.8	10:15~19:15	2.9	-3,132,685
14	下尾野口・修善寺線	下尾野口	中伊豆温泉病院	修善寺駅	14.0	0.8	7:23~18:09	1.6	-1,692,199
15	下尾野口・沢口線	下尾野口	冷川	沢口	6.8	1.3	14:54~15:46	0.3	-1,836,251
16	修善寺・伊東線	修善寺駅	冷川峠	伊東駅	13.4	6.0	7:00~18:30	2.7	-9,851,165
17	修善寺・温泉病院線	修善寺駅		中伊豆温泉病院	5.6	7.6	8:03~17:10	1.7	-4,444,347
合計									-46,282,286

(金額:千円)

運行年度	利用者数(人)	経常収益	経常費用	経常損益	市補助金	うち県補助金
25	323,779	61,635	108,593	-46,958	46,958	19,098
26	363,440	59,572	107,965	-48,393	48,393	19,245
27	315,286	62,887	109,170	-46,283	46,283	(見込)19,455

■自主運行バス路線については、住民の生活路線として欠かすことの出来ない重要な路線となっている。特に小・学・高校生の主要な通学手段であるとともに、高齢化が進む農村部においては近隣商業地・病院等へ出掛けるための交通手段となっている。以上のような現状から来年度も今年度と同様に、17 系統について運行を継続したい。(今年度と申出路線の変更なし)

④ 市単独補助路線

系統番号	系統名 (路線名)	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行 回数 (回/日)	運行時間帯 (修善寺駅発)	平均乗 車密度 (人)	平成27年度 年間経常損益 (円)
		起 点	経過地	終 点					
1	中伊豆線	修善寺駅	貴僧坊	筏場新田	13.88	0.4	7:00~7:36	7.0	-930,609
2	中伊豆線	筏場	—	筏場新田	1.1	0.3	16:11~16:14	—	-77,988

(金額:千円)

運行年度	利用者数(人)	経常収益	経常費用	経常損益	市補助金
25	17,430	2,148	2,556	-408	407
26	18,522	1,876	2,604	-728	727
27	16,410	1,557	2,565	-1,009	1,007

(報告：伊豆市生活交通確保対策費補助金)

【利用促進及び収支改善に向けた取り組み内容】

- ・高齢者路線バス割引乗車証(いきいきパス)の販売及び購入費の補助
- ・福祉バス・タクシー利用料金の補助
- ・小中学生、高校生へのバス通学費補助
- ・新たなフリーパスの販売等による観光客の利用促進(伊豆ドリームパスなど)
- ・21時台バス(修善寺駅発)の運行
(部活動・塾帰りの中高生や、仕事などで帰宅時間が遅くなった方への対応)
- ・時刻表の全戸配布
- ・公共施設(市役所・生きいきプラザ等)に時刻表配布コーナーを設置
- ・乗換時刻表検索サイトへの掲載
- ・バスの乗り方教室、戸別訪問(時刻表の配布・乗り方の説明・ヒアリング)の実施
- ・高等学校におけるアンケート調査の実施(利用実態及びニーズの把握)
- ・定期的に交通事業者や教育委員会等と利用者の要望にあわせたダイヤへの改正等を協議
- ・駅、バスのりば、バス停の整備・改修の実施(サイン等の見直しなど)
- ・事業者情報誌、市広報紙、各団体ホームページ、コミュニティFMでのPR等

地域間幹線系統に係る事業評価について

(静岡県交通基盤部都市局地域交通課)

1 概要

地域間幹線系統（補助対象系統）について、事業実施状況の確認や目標達成状況等の評価を行い、市町地域公共交通会議等における議論・検討することで、補助対象事業の効果的、効率的な実施を目的として実施している。

2 評価項目

項目		内容
前提事項 (点数無)	主な運行目的	利用実態等を含めた当該系統の運行目的を記載
	増収策	路線維持のための増収策を記載
	費用削減策	路線維持のための費用削減策を記載
点数化	運行回数	計画運行回数に対する実績運行回数を評価(3点満点)
	収支率	実績値を評価(収支率55%以上満点)
	乗車人員	計画値に対する実績値を評価(+5%以上満点)
	ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能な拠点数を評価(上限20点)
	広域トリップ状況	バス利用者の市町を跨ぐ移動割合を評価(20%以上満点)
	キロ当たり経費	国上限単価と各バス事業者単価を比較(-20%超満点)
	拠点施設等アクセス状況	バス停から半径500m以内の拠点施設を記載(評価点無)

【各項目に評価点を設定し、合計点に応じて以下のとおり評価】

評価	内容
A (52～79点)	地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B (26～51点)	地域間幹線系統として適した運行となっている
C (0～25点)	地域間幹線系統として改善に努力を要する

3 地域間幹線系統とは【参考】

概要	地域（市町）を跨る広域的で幹線的な役割を果たす路線の維持確保のため国と県が協力して支援を実施。
補助対象者	一般乗合旅客自動車運送事業者（バス事業者）
補助金の種類	路線維持費（運行経費補助）※その他車両減価償却費
補助対象路線要件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数市町に跨るもの(広域性) ・ 1日あたりの運行回数が3回以上のもの(幹線性) ・ 1日あたりの輸送量が15～150人のもの(幹線性)
補助対象期間	補助年度の前年度の10月1日～補助年度の9月末日までの1年間
補助率	県1/2（国1/2）※補助対象経常費用見込額の9/20

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名

伊豆箱根バス株式会社

系統名(起点～經由地～終点)

中伊豆線(修善寺駅～地蔵堂・貴僧坊～筏場)

計画策定年度

27年度

運行期間 27年10月1日～28年9月30日

評価年度

28年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	Ⓐ・Ⓑ・Ⓒ	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 無	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有 無	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(5302.5)回 (14.4 回/日)	(5302.5)回 (14.4 回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	40.8%	44.0%	9	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	92,066人	90,245人	3	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(1)箇所 バス停(3)箇所	5	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	54.8%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	施設名称	—	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	308.30円	9	単価以上 0点 単価～-5% 3点 単価～-6～-10% 6点 単価～-11～-15% 9点 単価～-16～-20%超 12点	356.24円
合計				49	評価指標	A・Ⓑ・C

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項 目	内 容
主な運行目的	旧中伊豆町と旧修善寺町並びに伊豆箱根鉄道駿豆線修善寺駅間を結ぶ生活交通路線であるため、通勤・通学をはじめ、沿線住民の通院・買い物等日常生活を支える交通手段として運行している。
増収策	通学定期券の割引率を高めた特割通学定期券や、利用者の利用実態に即した平日型通学定期券や片道通学定期券を発売し、利用促進に努めた。 ホームページを全面リニューアルし、経路検索を可能にする等、検索しやすいサイトに改良し、今後も定期的に更新していく。 インバウンドの取り込み施策として、弊社グループ内で修善寺地区活性化プロジェクトを立ち上げ、インバウンド専用のホームページを製作。当サイト内バスの運賃や路線図・バスの乗り方等を掲載予定。(年内完成予定) お客さま配布用路線図を作成し、弊社路線の運行経路の他、バスのりば案内や乗り方の案内を記載し、周知を図る。(年内完成予定)
費用削減策	ダイヤ改正と合わせて、運転手の仕業本数を見直し、効率的に人件費の削減を図る。 乗務員教育の中で、乗務員個々に事故防止意識を醸成し、車両修繕費や保険料等の費用の抑制を図る。

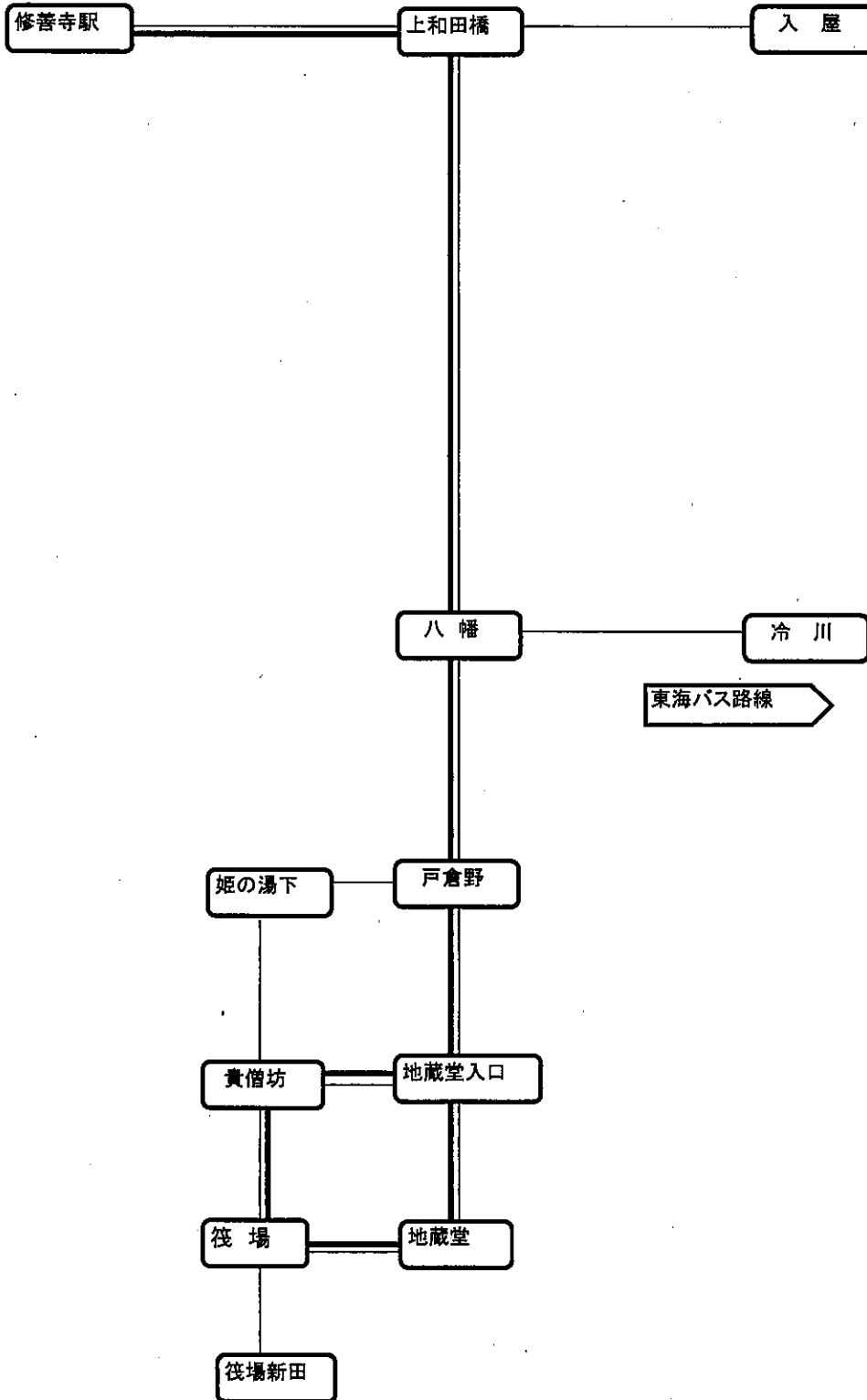
(2) 各項目の評価

項 目	内 容
ネットワーク構成	(主な乗換え拠点・バス停) 修善寺駅・上和田橋・八幡・戸倉野
公共施設 拠点施設 アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 修善寺駅・修善寺南小学校・中伊豆小学校・修善寺中学校・中伊豆中学校・伊豆市役所・ 伊豆市役所中伊豆支所・中伊豆図書館・中伊豆温泉病院・伊豆赤十字病院・ マックスバリュ修善寺駅前店・モガワ・コメリ・銀行(静岡・スルガ・静岡中央・三島信用)・ 修善寺郵便局・JA伊豆の国農の駅・橋保育園・さくらこども園・JAハートフルメモリー 修善寺会館・スーパーカドイケ中伊豆店

平成28年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	中伊豆線			事業者名	伊豆箱根バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	修善寺駅	地藏堂 貴僧坊	筏場		
系統キロ程(km)	12.7		輸送量(人/日)	37.4	
平均乗車密度(人/便)	2.6		運行回数(回/日)	14.4	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	修善寺南小学校、中伊豆小学校、修善寺中学校、中伊豆中学校			
	病院	中伊豆温泉病院、伊豆赤十字病院			
	商業施設	銀行（静岡・スルガ・静岡中央・三島信用）、修善寺郵便局、JA伊豆の国農の駅、マックスバリュ修善寺駅前店、モガワ、コメリ、スーパーカドイク中伊豆店			
	その他	伊豆市役所、伊豆市役所中伊豆支所、中伊豆図書館、修善寺郵便局、伊豆箱根鉄道修善寺駅、橋保育園、さくらこども園、JAハートフルメモリー修善寺会館			
収支率(%) (収益/費用)	44.0			乗車人員(人)	90,245
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停3	名称	拠点：伊豆箱根鉄道修善寺駅 バス停：上和田橋、戸倉野、八幡		
広域利用状況(%) (他市町公民館利用者の割合)	54.8				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・通学定期券の割引率を高めた特割通学定期券や、利用者の利用実態に即した平日型通学定期券や片道通学定期券を発売し、利用促進に努めた。 ・ホームページを全面リニューアルし、経路検索を可能にする等、検索しやすいサイトに改良し、今後も定期的に更新していく。 ・インバウンドの取り込み施策として、弊社グループ内で修善寺地区活性化プロジェクトを立ち上げ、インバウンド専用のホームページを製作。当サイト内バスの運賃や路線図・バスの乗り方等を掲載予定。（年内完成予定） ・お客さま配布用路線図を作成し、弊社路線の運行経路の他、バスのりば案内や乗り方の案内を記載し、周知を図る。（年内完成予定） 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤ改正と合わせて、運転手の仕業本数を見直し、効率的に人件費の削減を図る。 ・乗務員教育の中で、乗務員個々に事故防止意識を醸成し、車両修繕費や保険料等の費用の抑制を図る。 				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統地図



地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名 **株式会社新東海バス**
 系統名(起点～経由地～終点) **戸田線(修善寺駅～虹の郷～戸田)**
 計画策定年度 **27年度** 運行期間 **平成27年10月1日～平成28年9月30日** 評価年度 **28年度**

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A・B・C	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	○	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	○	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	事業者計画数と運行実績との比較	(2,562)回 (7.0回/日)	(2,562)回 (7.0回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	実績収支率	76.5%	65.8%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と運行実績との比較	42,219人	42,894人	3	計画数+5% 6点 計画数±5% 3点 計画数-5%未満 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(1)箇所 バス停(5)箇所	7	拠点(駅・BT) 1件2点 その他のバス停 1件1点 限度20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	45.5%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	実施施設数(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等)	—	施設名称 伊豆総合高校、戸田中学校、戸田小学校、伊豆赤十字病院、マックスバリュ修善寺駅前店、伊豆箱根鉄道修善寺駅、伊豆市役所、修善寺総合会館、沼津市戸田市民窓口、くるら戸田	—	—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の国が定める地域キロ当たり経常費用単価との比較	—	294.45円	12	単価以上 0点 単価～-5% 3点 単価-6～-10% 6点 単価-11～-15% 9点 単価-16～-20%超 12点	
合計				63	評価指標	A・B・C

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
 B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
 C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項 目	内 容
主な運行目的	<p>修善寺駅と鉄道のない戸田地区を結ぶ重要な路線であり、また、戸田からは土肥温泉あるいは井田方面へ乗り換えることができる幹線系統となっており、高齢化率の高い戸田地区においての地域住民の足の確保が目的となっている。</p> <p>伊豆市と沼津市の境となる「戸田峠」を越える利用は、全体の半数程度であり、そのうち通勤、通学、通院等を目的とした地元客が9割近くを占めており、さらにそのうちの半数が通院等の利用となっている。また、戸田峠を越えない短距離利用客の内訳は、修善寺温泉や虹の郷へ行く観光利用が多く、通院等の利用は比較的少ない。</p>
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の利用実態に即した、平日型通学定期券の発売を引続き実施している。 2. 高齢者定期券(いきいきパス)を引続き発売し、高齢者の利用促進及び高齢者福祉を図る。 3. 当社路線バス沿線情報誌「EAZY(イージー)」に通学定期券の情報を掲載するなど宣伝媒体を利用した利用促進を行っている。 4. 時刻表を市役所等で配布している他、新聞折込等により各戸へ配布している。 5. 時刻表検索サイトへの掲出により、鉄道との乗り継ぎ時刻が検索できるようにしている。
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 28年度賃金(人件費)についても、ベースアップを見送るとともに、賞与の業績連動制度の導入により一層の経費抑制に努めている。 2. エコドライブ(省燃費運転)を継続して取り組み経費抑制に努めている。 3. 乗務員の運転技術の向上に努めることにより、バス車両修繕費の抑制を図っている。

(2) 各項目の評価

項 目	内 容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>拠点: 伊豆箱根鉄道修善寺駅 バス停: 修善寺駅口、修善寺温泉入口、修善寺温泉、ニュータウン入口、戸田</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>伊豆総合高校、戸田中学校、戸田小学校、伊豆赤十字病院、マックスバリュ修善寺駅前店、伊豆箱根鉄道修善寺駅、伊豆市役所、修善寺総合会館、沼津市戸田市民窓口、くるら戸田</p>

平成28年度運行分系統別利用実態 (公表シート) 様式2

系統名	戸田線			事業者名	株式会社新東海バス
路線の状況	起点	経由地	終点		
	修善寺駅	虹の郷	戸田		
系統キロ程 (km)	25.1	輸送量 (人/日)	25.9		
平均乗車密度 (人/便)	3.7	運行回数 (回/日)	7.0		
アクセスポイント状況 公共施設	学校	伊豆総合高校、戸田中学校、戸田小学校			
	病院	伊豆赤十字病院			
	商業施設	マックスバリュ修善寺駅前店			
	その他	伊豆箱根鉄道修善寺駅、伊豆市役所、修善寺総合会館、沼津市戸田市民窓口、くるら戸田			
収支率 (%) (収益/費用)	65.8		乗車人員 (人)	42,894	
乗換可能な アクセスポイント等	拠点: 1 バス停: 5	名称	拠点: 伊豆箱根鉄道修善寺駅 バス停: 修善寺駅口、修善寺温泉入口、修善寺温泉、ニュータウン入口、戸田		
広域利用状況 (%) (他市町へ長期利用者の割合)	45.5				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の利用実態に即した、平日型通学定期券の発売を引続き実施している。 2. 高齢者定期券 (いきいきパス) を引続き発売し、高齢者の利用促進及び高齢者福祉を図る。 3. 当社路線バス沿線情報誌「E A Z Y (イージー)」に通学定期券の情報を掲載するなど宣伝媒体を利用した利用促進を行っている。 4. 時刻表を市役所等で配布している他、新聞折込等により各戸へ配布している。 5. 時刻表検索サイトへの掲出により、鉄道との乗り継ぎ時刻が検索できるようにしている。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 28年度賃金 (人件費) についても、ベースアップを見送るとともに、賞与の業績連動制度の導入により一層の経費抑制に努めている。 2. エコドライブ (省燃費運転) を継続して取り組み経費抑制に努めている。 3. 乗務員の運転技術の向上に努めることにより、バス車両修繕費の抑制を図っている。 				
沿線市町のサポート					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統地図

【修善寺駅～戸田線 路線図】

